



現地コンサルタントがハノイ市民の家庭を訪問。経済状況や交通手段など、生活の様子を調査



マスタープランに基づき、円借款で建設が進められているUMRTの完成予想図(駅ホーム)

また、鉄道建設と同時に、多くの人が集まる駅を中心とした街づくりを考えていくことも重要だ。そこでJICAは08年に「ハノイ市におけるUMRTの建設と一体となった都市開発整備計画調査」を実施。31駅を対象に、駅前広場や駐車場、ショッピングセンターなど、

3年間の調査を終え完成したマスタープランは、都市交通、水環境、住宅、環境、景観など9分野から構成。現在、これをもとにさまざまな都市開発が進められている。その一つが、円借款によるUMRT(都市鉄道)1・2号線の建設だ。輸送能力や正確性に優れた鉄道は、交通渋滞や大気汚染の原因となる車やバイクに代わる交通手段。2017年に両線が開業すれば、ハノイ市内の交通事情が大きく改善されると期待されている。

また、鉄道建設と同時に、多くの人が集まる駅を中心とした街づくりを考えていくことも重要だ。そこでJICAは08年に「ハノイ市におけるUMRTの建設と一体となった都市開発整備計画調査」を実施。31駅を対象に、駅前広場や駐車場、ショッピングセンターなど、



運営管理委員会では、年に数回、調査の進捗を踏まえ、マスタープランの内容を議論し、各省庁間の連携を図った



[右]ハノイ市民にマスタープランを紹介する展示会を開催。10日間で7,000人も来場した
[左]展示会会場を訪れたファン・クアン・ギー・ハノイ市共産党書記長に説明を行う岩田さん(右)

**ボトムアップで考える
ハノイ市のビジョン**

市場経済に移行して20年以上が経過していたが、行政機関は縦割りの官僚主義的な傾向が強く、交通、上下水道、住宅と、セクターごとの個別の開発計画はあっても、総合的に都市開発を進めるといって考え方はなかった。しかし、「例えば住宅地をつくるにも、単に家を建てればよいわけではなく、道路や上下水道、電気など、他のセクターについても一緒に考えていくことが大事です」と、調査の総括を務めた株式会社アルメックの岩田鎮夫さんは話す。

そこで、セクターごとに専門家

によるワーキンググループを組織し、毎月、調査結果を報告するミーティングを開いた。岩田さんは各セクターの報告を共有し、総合的なプランにまとめられるよう調整。また、ハノイ市を中心に、建設省、運輸省、計画投資省、天然資源省、環境省などの関係省庁から責任者を集めた運営管理委員会や、現地の大学の研究者などから成るフォーカスグループなどで、都市の全体像を見据えたマスタープランの基本戦略を議論していった。

さらに、ハノイ市民の生の声を都市計画づくりに反映させるために、2万世帯の約10万人を対象とした家庭訪問調査を行った。家族構成や職業、年収、車やテレビなど

**マスタープランをもとに
住みよい都市へ**

3年間の調査を終え完成したマスタープランは、都市交通、水環境、住宅、環境、景観など9分野から構成。現在、これをもとにさまざまな都市開発が進められている。その一つが、円借款によるUMRT(都市鉄道)1・2号線の建設だ。輸送能力や正確性に優れた鉄道は、交通渋滞や大気汚染の原因となる車やバイクに代わる交通手段。2017年に両線が開業すれば、ハノイ市内の交通事情が大きく改善されると期待されている。

また、鉄道建設と同時に、多くの人が集まる駅を中心とした街づくりを考えていくことも重要だ。そこでJICAは08年に「ハノイ市におけるUMRTの建設と一体となった都市開発整備計画調査」を実施。31駅を対象に、駅前広場や駐車場、ショッピングセンターなど、



「水と緑の都」と呼ばれるハノイ。観光客誘致のため、歴史ある街並みを保存し、景観を整備することも都市計画の一部として考えられている

ベトナム
from VIET NAM

住民の声を取り入れた 持続的な都市づくり

経済成長とともに人口が増加しているベトナムの首都ハノイ。その中で次第に深刻化するさまざまな都市問題に対応するため、JICAは多分野にわたる総合的な都市計画の策定などに協力している。

人口増加に追い付かない 都市開発

千年の歴史を持つベトナムの首都ハノイ。国会議事堂や共産党本部などが立ち並ぶ政治の中心地だ。かつては計画経済のもと、貧しいながらも人々は政府から提供された住宅で、徒歩や自転車です動ける範囲のコンパクトな生活を送っていた。

しかし、改革開放政策(ドイモイ政策)の導入で市場経済に移行した1986年以降、大きな変化が訪れる。外国資本の流入で産業の工業化や近代化が進み、経済が発展。雇用の拡大などに伴って農村部から人々が都市へ集申し、99年に270万人だった人口は2003年には300万人に。収入も倍近くに増加し、バイクの台数が急増した。

そして、人々の生活が豊かにな



ハノイ市民の主な交通手段はバイク。所得の増加に伴い、今後は車の交通量が増えることが予想されている

った反面、次第に深刻化していったのが交通渋滞や水不足、環境汚染、住宅不足といった都市問題だ。都市化のスピードに市の行政能力が追い付いていない。

そこでベトナム政府からの要請を受け、JICAは04~07年に「ハノイ市総合都市開発計画調査」を実施。ハノイ市とその周辺地域を含む北部ベトナム16省を対象に調査を行い、ハノイ市のマスタープランを策定した。日本人だけで47人、現地のコンサルタントを入れると約80人もの専門家がかわる大規模プロジェクトだ。

